

(五) あの世界の呼び声

ほとんど聞こえぬ鼓膜を揺すり

呼びかける声が響く

「ぞお・・・」 「ぞお・・・」 と呼ぶ声

親父の呼び方だ 親父はいつもそう呼んだ

どうだ辛いかな、そろそろどうだ

いや、まだだ、まだまだだ

ほう、愛想もコソもないな

母さんも待ってるぞ、

隣で、母の丸い頬が丸く笑う

「そうだ、そうだ、ゆっくりだ、ゆっくりね」

心持頬が染まる

「待つてなんか居ないよ、待つてるもんか」  
ワザと愛想つけのない呟き

何故か僕は嬉しくつて

「母さん……」と呟く

遠く離れて親父が呼んでいる

汽車が出るぞ、時間だ

僕ももう振り向かない

寄り添った二人の背中が

遠ざかって行く

足音も聞こえない

「まだ行かないよ」

僕はきっぱりと自分に言い聞かせる

(二〇一九年一月一五日)